1．アクティブラーニングを実施している科目について

1）初年次ゼミ　　※　他学部や全学共通組織などの別組織が提供している科目を含む

● 「初年次ゼミ」とは、**初年次に配当されスタディスキル（レポートの書き方、文献探索など）や能動的な学びへの態度転換を目的とする双方向、少人数で行われる演習などの科目**のことです。

「90分換算での１クラス、１セメスターあたりの授業回数」欄は、１コマを90分とした場合、１つのクラスでは当該の授業を１セメスターの間に何コマ実施されていることになるかということを問う欄です。例えば、１コマ 90 分で時間割が組まれていて、毎週火曜日の午後の２コマを使って１セメスターの間に 15 回実施されている科目があった場合には、“30”と記入します（15回×２コマ）。

ＳＡ：２年生以上の学部生
ＴＡ：大学院生
ファシリテータ：単なるプリント配布や回収などの事務的な作業だけではなく、受講生に対して直接アドバイスも行って授業進行を補佐するような人。

【記入欄】

初年次ゼミの科目名 ※「初年次ゼミ」とは、初年次に配当されスタディスキル（レポートの書き方、文献探索など）や能動的な学びへの態度転換を目的とする双方向、少人数で行われる演習などの科目のことです。	目的と内容（50字以内）	提供組織 ※１ 該当する提供組織を✔して下さい。※２ 他学部や全学共通組織が提供している場合には把握している範囲で、右の設問に回答して下さい。			必修／選択				配置セメスター ※ 配置されているセメスターに✔、通期開講の場合には前期・後期の両方に✔。３学期制の場合、１学期は前期、２・３学期は後期として記入して下さい。		科目に含まれているアクティブラーニングの形態 ※ 実施しない場合、把握できない場合は記入しないで下さい。																		レポート返却の有無 ※ 実施しない場合、把握できない場合は記入しないで下さい。			90分換算での１クラス、１セメスター当たりの授業回数	教員一人当たりの平均担当学生数	開講講座数	ＳＡあるいはＴＡがファシリテータとして授業に関わるか？ ※ 該当するものに✔。開講講座数が全１講座の場合、そこで実施していれば“全講座で導入”に✔。		
					必修／選択 ※ 該当するものに✔		⇒選択科目の場合				グループワーク			ディベート			フィールドワーク			プレゼンテーション			振り返り			授業時間外学習（宿題）											
		全学組織	学部	学科	必修	選択	履修率（x%） ※ 学科学生の何%が履修しますか？該当する学科内での履修率を✔して下さい。		前期	後期	基本的に毎回	2～3回に1回	時々	基本的に毎回	2～3回に1回	時々	基本的に毎回	2～3回に1回	時々	基本的に毎回	2～3回に1回	時々	基本的に毎回	2～3回に1回	時々	基本的に毎回	2～3回に1回	時々	返却必須	返却は教員裁量	返却しない				全講座で導入	一部の講座で導入	導入していない
							x<20																														
							20≦x<40																														
							40≦x<60																														
							60≦x<80																														
							x≧80																														
							x<20																														
							20≦x<40																														
							40≦x<60																														
							60≦x<80																														
							x≧80																														
							x<20																														
							20≦x<40																														
							40≦x<60																														
							60≦x<80																														
							x≧80																														
							x<20																														
							20≦x<40																														
							40≦x<60																														
							60≦x<80																														
							x≧80																														

２）専門知識を活用しないアクティブラーニング科目

- 「専門知識を活用しないアクティブラーニング科目」とは、専門知識を活用せず、自己発見、モノづくり、社会見学、スタディスキル指導（レポートの書き方、文献探索など）などに取り組むような科目のことです。
- 科目の目的が他のアクティブラーニングの分類と重なる場合、比重が最も大きい分類の回答欄に回答して下さい。

「90 分換算での１クラス、１セメスターあたりの授業回数」欄は、１コマを 90 分とした場合、１つのクラスでは当該の授業を１セメスターの間に何コマ実施されていることになるかということを問う欄です。例えば、１コマ 90 分で時間割が組まれていて、毎週火曜日の午後の２コマを使って１セメスターの間に 15 回実施されている科目があった場合には、“30”と記入します（15 回×２コマ）。

ＳＡ：２年生以上の学部生
ＴＡ：大学院生
ファシリテータ：単なるプリント配布や回収などの事務的な作業だけではなく、受講生に対して直接アドバイスも行って授業進行を補佐するような人。

【記入欄】

配置セメスター ※１　配置されているセメスターに✔、通期開講の場合には前期・後期の両方に✔。３学期制の場合、１学期は前期、２・３学期は後期として記入して下さい。 ※２　履修学年が「２年次後期～」などと指定されている科目の場合には、２～４年次の各後期に✔。								専門知識を活用しない アクティブラーニング科目名	目的と内容 （50 字以内）	必修／選択			９０分換算での１クラス・１セメスターあたりの授業回数	教員一人当たりの担当学生数（科目内平均）	開講講座数	ＳＡあるいはＴＡがファシリテータとして授業に関わるか？ ※　該当するものに✔。開講講座数が全１講座の場合、そこで実施していれば“全講座で導入”に✔。		
１年次		２年次		３年次		４年次				必修／選択 ※　該当する選択肢に✔。なお、学科内の一部のコースや専攻で必修としている場合には選択として下さい。		⇒　選択科目の場合						
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			必修科目	選択科目	履修率 （x%） ※　卒業までに学科学生の何％が履修しますか？該当する履修率を✔して下さい。				全講座で導入	一部の講座で導入	導入していない
												x<20 20≦x<40 40≦x<60 60≦x<80 x≧80						
												x<20 20≦x<40 40≦x<60 60≦x<80 x≧80						
												x<20 20≦x<40 40≦x<60 60≦x<80 x≧80						
												x<20 20≦x<40 40≦x<60 60≦x<80 x≧80						
												x<20 20≦x<40 40≦x<60 60≦x<80 x≧80						

３）専門知識の定着を目的としたアクティブラーニング科目

- 「専門知識の定着を目的としたアクティブラーニング科目」とは、専門知識の定着を目的として、ケーススタディ、実験、演習・実習などを実施している科目のことです。
- 科目の目的が他のアクティブラーニングの分類と重なる場合、比重が最も大きい分類の回答欄に回答して下さい。

「90 分換算での１クラス、１セメスターあたりの授業回数」欄は、１コマを 90 分とした場合、１つのクラスでは当該の授業を１セメスターの間に何コマ実施されていることになるかということを問う欄です。例えば、１コマ 90 分で時間割が組まれていて、毎週火曜日の午後の２コマを使って１セメスターの間に 15 回実施されている科目があった場合には、“30”と記入します（15 回×２コマ）。

ＳＡ：２年生以上の学部生
ＴＡ：大学院生
ファシリテータ：単なるプリント配布や回収などの事務的な作業だけではなく、受講生に対して直接アドバイスも行って授業進行を補佐するような人。

【記入欄】

配置セメスター ※１　配置されているセメスターに✔、通期開講の場合には前期・後期の両方に✔。３学期制の場合、１学期は前期、２・３学期は後期として記入して下さい。 ※２　履修学年が「２年次後期～」などと指定されている科目の場合には、２～４年次の各後期に✔。								専門知識の定着を目的としたアクティブラーニング科目名	専門知識定着の方法（50 字以内） ※　例えば、ドリル、実験、小テストなど、どのような方法・手段で知識を定着させているのかお答え下さい。	定着させる専門知識を伝達している科目 ※　定着させるべき知識を当該科目で伝達している場合と、当該科目とは別科目で伝達している場合とがあります。当該科目以外で伝達している科目があればご記入下さい。なお、当該科目で伝達している場合には“同科目”と記入して下さい。	必修／選択 必修／選択 ※　該当する選択肢に✔。なお、学科内の一部のコースや専攻で必修としている場合には選択として下さい。		⇒　選択科目の場合	９０分換算での１クラス・１セメスターあたりの授業回数	教員一人当たりの担当学生数（科目内平均）	開講講座数	ＳＡあるいはＴＡがファシリテータとして授業に関わるか？ ※　該当するものに✔。開講講座数が全１講座の場合、そこで実施していれば“全講座で導入”に✔。		
１年次		２年次		３年次		４年次													
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				必修科目	選択科目	履修率 （x%） ※　卒業までに学科学生の何％が履修しますか？該当する履修率を✔して下さい。					全講座で導入	一部の講座で導入	導入していない
													x<20							
													20≦x<40							
													40≦x<60							
													60≦x<80							
													x≧80							
													x<20							
													20≦x<40							
													40≦x<60							
													60≦x<80							
													x≧80							
													x<20							
													20≦x<40							
													40≦x<60							
													60≦x<80							
													x≧80							
													x<20							
													20≦x<40							
													40≦x<60							
													60≦x<80							
													x≧80							
													x<20							
													20≦x<40							
													40≦x<60							
													60≦x<80							
													x≧80							
													x<20							
													20≦x<40							
													40≦x<60							
													60≦x<80							
													x≧80							

４）課題解決を目的としたアクティブラーニング科目

- 「課題解決を目的としたアクティブラーニング科目」とは、専門知識を活用して、ＰＢＬやモノづくりのような創成型授業などに取り組む科目のことです。PBL（project/problem based learning）とは、課題発見・解決型学習のことで、学習者が自ら課題を発見し、その解決を図ることを通して学びを深めるような学習方法のことです。
- 科目の目的が他のアクティブラーニングの分類と重なる場合、比重が最も大きい分類の回答欄に回答して下さい。
- 専門ゼミ・専門研究については５）で、卒業論文・卒業研究については６）で、それぞれ回答して下さい。

「90 分換算での１クラス、１セメスターあたりの授業回数」欄は、１コマを 90 分とした場合、１つのクラスでは当該の授業を１セメスターの間に何コマ実施されていることになるかということを問う欄です。例えば、１コマ 90 分で時間割が組まれていて、毎週火曜日の午後の２コマを使って１セメスターの間に 15 回実施されている科目があった場合には、“30”と記入します（15 回×２コマ）。

ＳＡ：２年生以上の学部生
ＴＡ：大学院生
ファシリテータ：単なるプリント配布や回収などの事務的な作業だけではなく、受講生に対して直接アドバイスも行って授業進行を補佐するような人。

【記入欄】

配置セメスター ※１　配置されているセメスターに✔、通期開講の場合には前期・後期の両方に✔。３学期制の場合、１学期は前期、２・３学期は後期として記入して下さい。 ※２　履修学年が「２年次後期～」などと指定されている科目の場合には、２～４年次の各後期に✔。								課題解決を目的としたアクティブラーニング科目名	授業内容 （50 字以内）	活用すべき専門知識を伝達している科目 ※　活用すべき知識を当該科目で伝達している場合と、当該科目とは別科目で伝達している場合とがあります。当該科目以外で伝達している科目があればご記入下さい。なお、当該科目で伝達している場合には“同科目”と記入して下さい。	必修／選択 必修／選択 ※　該当する選択肢に✔。なお、学科内の一部のコースや専攻で必修としている場合には選択として下さい。		⇒　選択科目の場合		９０分換算での１クラス・１セメスターあたりの授業回数	教員一人当たりの担当学生数（科目内平均）	開講講座数	ＳＡあるいはＴＡがファシリテータとして授業に関わるか？ ※　該当するものに✔。開講講座数が全１講座の場合、そこで実施していれば“全講座で導入”に✔。		
１年次		２年次		３年次		４年次													
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				必修科目	選択科目	履修率 （x%） ※　卒業までに学科学生の何％が履修しますか？該当する履修率を✔して下さい。					全講座で導入	一部の講座で導入	導入していない
													x<20 20≦x<40 40≦x<60 60≦x<80 x≧80							
													x<20 20≦x<40 40≦x<60 60≦x<80 x≧80							
													x<20 20≦x<40 40≦x<60 60≦x<80 x≧80							
													x<20 20≦x<40 40≦x<60 60≦x<80 x≧80							

5）専門ゼミ・専門研究

該当する選択肢に✔を記して下さい。なお、専門ゼミ・専門研究では、指導教官・研究室ごとにそれぞれ別科目として扱われていることがありますが、ここでは専門ゼミや専門研究そのものを１科目として記入して下さい。

記入例）　・　２年次後期に「プレ演習」(選択科目、履修率 90%)、３年次通期に必修科目「演習Ⅰ」、４年次通期に必修科目「演習Ⅱ（卒業研究)」が配置されている。

　　・　各演習とも講座数は 20 講座である。

科　目　名	必修／選択 ※該当する選択肢に✔		選択科目である場合の履修率（ｘ%） ※　卒業までに学科学生の何%が履修しますか？該当する履修率を✔して下さい。					配置されているセメスター						ゼミあるいは講座の開設数
	必修	選択	x<20	20≦x<40	40≦x<60	60≦x<80	x≧80	２年次		３年次		４年次		
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	
プレ演習		✔					✔		✔					20
演習Ⅰ	✔									✔	✔			20
演習Ⅱ（卒業研究）	✔											✔	✔	20

【記入欄】

科　目　名	必修／選択 ※該当する選択肢に✔		選択科目である場合の履修率（ｘ%） ※　卒業までに学科学生の何%が履修しますか？該当する履修率を✔して下さい。					配置されているセメスター						ゼミあるいは講座の開設数
	必修	選択	x<20	20≦x<40	40≦x<60	60≦x<80	x≧80	２年次		３年次		４年次		
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	

６）卒業論文・卒業研究

※　卒業レポートのみの場合、卒業実験のみの場合は含みません。

チェック欄には該当する選択肢を✔して下さい。

番号	設　　問	選　択　肢		チェック欄	番号にしたがってお進み下さい。
①	卒業論文・卒業研究はありますか？	ある	択一		②へ
		ない			次頁へ
②	卒業論文・卒業研究がある場合、それは全員必須とされていますか？	全員必須とされている	択一		③へ
		必須とされていない			④へ
③	卒業論文・卒業研究が全員必須とされている場合、論文の執筆量などの規定はありますか？規定がある場合には、選択肢に✔した上で、その下の空欄にその量規定について記述して下さい（自由記述）。	最低限の量規定がある ＜量規定＞	択一		⑥へ
		量の規定は無い			
④	卒業論文・卒業研究が全員必須とされていない場合、学科１学年の学生数を母数として、卒業論文・卒業研究に取り組む学生の割合はおよそどのくらいですか？	20%未満	択一		⑤へ
		20%以上 40%未満			
		40%以上 60%未満			
		60%以上 80%未満			
		80%以上 100%未満			
		100%			
⑤	卒業論文・卒業研究が全員必須とされていない理由はどのようなものですか？ また、卒業論文・卒業研究が全員必須である必要がない場合、その理由についてその下の空欄に記述して下さい（自由記述）。	必要であるが、やむを得ず必須としていない	択一		⑥へ
		全員必須である必要がない ＜その理由＞			
⑥	卒業論文・卒業研究がある場合、その審査は誰が行いますか？	複数教員により審査が行われる	択一		⑦へ
		担当教員のみの審査が行われる			
⑦	卒業論文・卒業研究がある場合、審査（評価）において、明文化された審査（評価）基準チェックシートはありますか？	ある	択一		⑧へ
		ない			
⑧	卒業論文・卒業研究がある場合、その発表はどのように行われますか（複数回答可）？	卒論（卒研）発表会が行われている	複数回答可		⑨へ
		全員参加のポスターセッションがある			
		優秀論文の発表会がある			
		卒論（卒研）発表会は行われていない			次頁へ
⑨	卒論（卒研）発表会が行われている場合、全員の口頭発表はありますか？	全員の口頭発表がある	択一		⑩へ
		全員の口頭発表はない			
⑩	卒論（卒研）発表会が行われている場合、その発表は成績に反映されますか？	反映される	択一		次頁へ
		反映されない			

２．学習成果コンテストについて

※　学習成果コンテスト：単なる発表会ではなく、成果を競い、表彰や順位付けが行われるもの。

正課の学習成果を高めることを目的にした、大学、学部あるいは学科主催のゼミ大会、制作物のコンテスト、研究発表会などの学習成果コンテストはありますか（１ゼミ・１授業内のもの、卒業研究発表会、学外団体が主催するものは除く）。該当する選択肢に✔を記して下さい。

ここで言う「参加学生」には、プレゼンをする学生、プレゼンのための準備をする学生が該当します。

学習成果コンテスト名	学習成果コンテストの概要	対象学年				主催				参加学生の割合（ｘ％） ※　「参加学生の割合」では、４年間を通して全学生の何％程度が参加しますか？該当する履修率の箇所に✔を記入して下さい。					
		１年生	２年生	３年生	４年生	大学	学部	学科	その他 ※直接記入	x<20	20≦x<40	40≦x<60	60≦x<80	80≦x<100	x=100

以上、ご協力ありがとうございました。